

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター

執筆担当：斎藤登美夫

◆◆◆ No.0785 ◆◆◆

24/04/17

【ドル/円、筆者予想の「年間レンジ上限 155 円」に急接近】

のっけから自画自賛で恐縮なのだが、今年ドル/円相場はここまで筆者のほぼ予想通りの展開だ。詳細はそれぞれ下記ないしはバックナンバーに当たってもらうとして、方向性もレベルも過去の当レターにおける指摘に沿った値動きをたどっている。自分で言うのもナンだが、ここまで予想がピッタリと的中することは過去にほとんど例がなく、逆に薄気味悪いほど。いずれにしても、今回の当レターでは筆者が今年の相場についてこれまでどんな予想を立てていたのかを振り返るとともに、今後の見通しに関しては一部修正を加え、改めてレポートしてみたい。

◎155 円を超え 160 円接近も否定できないが、ドル高は意外に「短命」か

昨年 12 月 13 日付で「24 年為替市場の動意材料」ーと題しレポート以降、何回かにわけて今年の相場について報じてきた。そのなかから、相場見通しを中心に要旨を抜き書きすると以下のようなになる(カッコ内は該当レポート)。

- ・2024 年は「中立」ないしは「ややドル高」見通し(1 月 17 日付)
- ・今年ドル/円の年間予想レンジは「130-155 円」(1 月 17 日付)
- ・米国の景気後退局面入りは予想せず、断続的な利下げにも懐疑的(昨年 12 月 13 日付など)
- ・日本の金利引き上げも消極的なものにとどまる(昨年 12 月 13 日付など)
- ・今年ドル/円相場のザックリしたイメージは「年明け 141 円 →155 円 →130 円」(2 月 14 日付)
- ・「円安サイクル」との絡みでいえば、4 月にドルは年間高値を付ける可能性もある(4 月 3 日付)
- ・政府にとって「円買い介入」のハードルは極めて高い、実施はかなり難しい(2 月 14 日付)

ちなみに、当然ながら上記は決して都合のいい部分だけを各レポートから抜き書きしたわけではない。詳細をそれぞれバックナンバーで確認していただければわかると思います。

そんなバックナンバーを読めば一目瞭然なのだが、筆者の予測の基本は「過去の経験側(年間変動率)」と「円安サイクル」。それに、ファンダメンタルズを含めた金利情勢や政治ファクターなどを絡め複合的に考えている。

今年でいえば、各種データを分析したうえで信頼できるニュースソースに取材。そのうえで、まず「日米金利差が一般的に言われているほど縮小しない」との考えを根底に、方向性としては「中立」ないしは「ややドル高」と考えた。さらに、ややレンジが広いと考える方もあるかもしれないが、過去の年間変動率を参考に予想レンジ「130-155 円」を導き出したわけだ。

さて、ドル/円の実勢相場はというと本稿執筆段階で 155 円まで残り 20-30 ポイント。そして、政府・財務省による円買いの実弾介入はここまで観測されていない。

つまり、筆者が当初想定したレンジ上限を超えてきそうな気配もうかがえるのだが果たして如何に。ただし、年間レンジ予想を少し引き上げるとすれば、それにともない「130 円」としていた下限も当然引き上げる必要が生じる。1 月 17 日付レポートを参考にすると、今年が「ドル強気相場」だった場合の想定年間レンジは「133.86-159.22 円」だった。正直 160 円近いレベルまでのドル高進行はまだピンときていないのだが、それでも可能性は否定できないようだ。一応頭の片隅にでもとどめておきたい。

とは言え、先でも指摘したように今月 3 日付のレポートで筆者は、「4 月にドルは年間高値を付ける可能性」についても言及しており、この考えはまだ生きている。とするなら、足もとを含めたドル高の「寿命」はそれほど長くないのかもしれない、あまり追い掛けてドルの上値を買いたくはない気もしないではない。相場格言のひとつに「頭と尻尾はくれてやれ」ーというものがあるが、欲を書かずにここからはむしろドルの反落に注意を払いたいとさえ思う。

なお、この見方が崩れ仮に 5 月以降までドル高が進行しても、どこかでトップを付け、年末に掛けてはドルが急反落に転じる公算が大きいと引き続き考えている。先でも書いたように、当初想定していた年間安値「130 円」はいくぶん上方修正した方が良さそうで、ザックリいえば「135 円」か。それでも、本稿執筆段階で

